

今日の力

編輯 岩田欣三

御茶の水キリストの教会

デール・フォスター
テキサス州 サイプレス

10月9日(火)

誰もが信仰によって生きている・・・何かに対する

聖書朗読 ハバクク 3:1～8

あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、会わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、
地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。 詩篇 71:20

私たちはハバククについて、どんな人で、いつ生きていたのか、正確には知りません（おそらくはバビロンがエルサレムから捕囚するより少し前だと思われます）。しかし彼の言葉は、あらゆる時代のあらゆる人々に語りかけています。私たちの中で誰が、この預言書の最初の言葉でハバククがしたように、苦痛の叫びをあげたことがあるのでしょうか？「主よ、いつまでですか！？」「なぜですか！？」

ハバククは、私たちが神様の働き、あるいはより悩ましいことに、神様が明らかに何もしていないことに対して意味を見つけようとするのと同じように、格闘しました。どうして神様は正しい人をこんなにも悩ませておいて、悪人にはほとんど煩いを与えないように見えるのでしょうか？それはもしかしたら信者にとっても非信者にとっても同じように最も困難な問いかもしれません。そこには簡単な答えはありません。

しかしハバククは私たちに自らの苦痛を語る中で、自らの希望についても語っています。彼がしばしば引用した言葉は、今でも私たちの混沌に安定を与えてくれます。「正しい人はその信仰によって生きる」。しかしそれでは、人は正義だけではなく、信仰によって生きるのです。問題は何に、あるいは誰に対する信仰でしょうか？苦痛や混乱の真ただ中で、私たちは究極的にどこに信仰を置くか、選択しなければなりません。ハバククの助言は私たちに最善策を残します。「たとえいちじくの木は花を咲かせず、ぶどうの木に実がなくとも、主権者である主が私の力である」。

讃美歌 270

祈り 親愛なるお父様。ハバククが迷いと希望の中で敬虔に私たちの主のみことばを思い起こさせたことを感謝します。「あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」。私たちが悩みの中で希望を失わないよう、助けてください。
イエス様の御名により。アーメン。

デイビット・ラングフォード
テキサス州 ラボック

10月10日(水)

最悪の場面での感謝

聖書朗読 ハバクク 3:17～19

しかし、正しい人はその信仰によって生きる。 ハバクク 2:4

神様の正義について疑問を持った預言者に、聖書を通じて反響し、ローマ人への手紙1:17に着地した奥深い答えが生じました、『義人は信仰によって生きる。』

ハバククにとって、それは実際の人生からかけ離れたものでした！バビロンが迫ってほとんど何もかもを破壊しようとし、また神様の手先としてそれをしようとしていたのです。それはイスラエル人の物語の中でもまさに最悪の場面であったでしょう。それでも、ページはめくられ、次の場面でバビロンは自らの罪のつけを払うことになりました。

しかし最悪の場面の中で、人はどのようにして生き残ることができるのでしょうか？彼が彼なりに格闘した答えは、感謝と讃美でした。それが、信仰によって生きることの本当の意味でした。豊かさの中で感謝するのではなく、荒廃の中で感謝するのです！土地が強奪され、蓄えが尽き、そして納屋が崩れ去った、その時に主を喜ぶのです。

ハバククは最悪の場面が最後の場面ではないことを知っていました。私たちも同じこと、十字架が空っぽの墓に続いていたことを知ることができます。この信仰は悲しみや嘆きを避けず、悲しみの中に真の希望を与えるのです！最悪の場面で主を賛美し、神様がページをめくってくださるであろうということを知りましょう。喜びを手放してはいけません。

讃美歌 第二編 57

祈り アバ、お父様。私たちはこの信仰を持ち、敬虔になることを切望しています。どうか私たちにどんな時も喜ぶ喜びを与えてください。
イエス様の御名により。アーメン。

ティモシー・W・ケリー
コロラド州 リトルトン

10月11日（木）

大 い な る 期 待 ！

聖書朗読 マタイ 3:7～12

してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さないことがありますよう。

マタイ 7:11

両親の人生の中で、心が誇りでいっぱいになる瞬間というものがあります。子どもが生まれた日、学校を卒業した日、名誉を得た日、あるいはいくつかの難しい良識の課題に正しく答えた日は、両親が抱く画期的な出来事です。それらの時は希望の欲求を満たすことを反映するだけでなく、私たちの中で夢と未来への期待に対する確信を奮起させます。

そしてそれは、御子であるイエス様のバプテスマの場面での父なる神様も同じでした。神様は天そのものからイエス様が自らの子であり、愛するものであり誇らしいものであることを告げたのです！ 神様の誇りは、しかし、イエス様がすでにしたことに対してだけではなく、イエス様がするように備えられていたと神様が知っていたことに対してでもありました。

私たちもまた、神様の子どもです。神様は私たちを愛してくださっており、私たちがうまくやった時には誇りに思い、そうでない時には失望されます。そして、イエス様に対してと同じように、神様は私たちの未来——すなわち私たちが神様とともに歩み、御子の教えの上に自らの人生を変え、そして私たちが神様の御名により「実を成らせる」であろうことを期待しておられます。私たちのことを心配され、私たちが従うべき前への道を備えられ、そして私たちの人生に対する大いなる期待に私たちが応えることを切望しておられる父なる神様のうちに、私たちはなんと偉大な両親を持っていることでしょう！

讃美歌 500

祈 り 親愛なる私たちの父なる神様。私たちがあなたの愛と導きを受け入れ、あなたが私たちに対して持つておられる期待に応えられるよう、私たちを助けてください。

イエス様の御名により。アーメン。

ケビン・B・レイチェル
テネシー州 ナッシュビル

10月12日（金）

求め，探し，叩きなさい

聖書朗読 マタイ 7:7～11

願っても受けられないのは、自分の快樂のために使おうとして、悪い動機で願うからです。
ヤコブ 4:3

山上の説教の中で、祈りはとても重要な部分でした。イエス様は聞き手たちにいつ祈り、どこで祈り、どのように祈るべきかを語られました。現代の私たちが聖書を読む中でも、イエス様は私たちに、神様が祈りに答えてくださること、天のお父様が子どもたちに贈り物を与えることを喜ばれることを語られます。ひねくれ者の子どもであった私は、反応を見たいためだけに、妹にいたずらで虫をプレゼントしていたものでした。私たちの神様は、まさに神様です。神様はご自身の子どもたちにいたずらを仕掛けたりはしません——虫も、石も、蛇ありません。神様はよい贈り物だけをくださいます。神様は癒しと、知恵と、忍耐と、良いことの贈り物を与えられます。

しばしば私たちは求めては、求めたものが思ったほど早く与えられないのでがっかりします。間違ったドアをたたいたり、自分たちに害をなす贈り物を求めたりすることもあります。神様はそれでも答え、与え、開かれます。贈り物は完璧ではなく、私たちの期待したとおりのものではないこともあります。そういったことにがっかりして、求めるのをあきらめないようにしましょう（ヤコブ4:2）。神様は私たちよりも知恵があり、いつも私たちに、良い結果をもたらす贈り物をくださいます。

讃美歌 308

祈 り 親愛なる主よ。私たちが自分の願いをあなたの御手にゆだねる確信をもって祈ることができるように助けてください。あなたがいつも私たちに最善のものを与えてくださることを知って、私たちが決して貪欲にならず謙虚でいられますように。

イエス様の御名により。アーメン。

ケン・スコット
テネシー州 ナッシュビル

10月13日 (土)

伝道者であること

聖書朗読 マタイ 10:1～15

わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。

マタイ 10:39

初期の伝道の努力とは違い、短期的な伝道の考え方は一般的になりました。私たちは家を建てるのを手伝うためにグループでメキシコに旅行します。あるいは物資と励ましを持って孤児院を訪問するかもしれません。最初期のクリスチャンの伝道は、しかしながら、参考にするべきモデルはありませんでした。彼らはイエス様から大きな命令を与えられました。災難、拒絶、そして困難が予想されました。

マタイの福音書10章は、イエス様が12使徒に伝道の奉仕を依頼する厳粛な場面です。イエス様は12使徒に、彼らが遣わされるのは『狼の中に羊を送り出すようなもの』であると注意されました。イエス様は彼らに、余計なお金や服は持って行かないように言われました。彼らは『蛇のようにさとく、鳩のようにすなお』であることが必要とされ、用心することを求められました。なぜなら彼らは迫害され、鞭で打たれ、捕えられるだろうからです。

なぜ彼らは、このような仕事を受けることを甘んじたのでしょうか？ その答えは、彼らがイエス様に見つけたものは、この世界が与えてくれるどんなものよりも価値があるからだと思えます。イエス様は彼らに『ただで受けたのだから、ただで与えなさい』と言われました。彼らは何を受けたのでしょうか？ 勇気、目的、救い。そして彼らは、キリストへの献身を告げるために、自分たちの命さえ差し出そうと望んでいました。

私たちはそれぞれ、自分たちなりに、伝道者です。そこに困難があるとしても、イエス様のために生きることが特権であることを思い起こさせるために、イエス様のありのままの言葉を認めましょう。

讃美歌 第二編 198

祈り 神様。私たち一人ひとりに、イエス様が12使徒に与えられたような大いなる内なる強さをお与えください。主よ、あなたが命を投げうたれたことに感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

ダイロン・ドーリティ
カリフォルニア 州マリブ

10月14日(日)

自分自身を信じること

聖書朗読 マタイ 17:1～21

イエスは答えて言われた。「神を信じなさい」

マルコ 11:22

顔に涙を流しながら、牧師は仲間のグループに自分の悲しみを打ち明けました。彼は長い間、会衆の成長と悩みをコントロールしようと試みてきました。彼にとって、そのクリスチャンのグループは自分の責務でした。進歩は彼の努力を通してのみ起こりました。彼は「陶器師」によって使われる道具よりもむしろ、「陶器師」の役目を取っていたのです。

イエス様は変容から戻られた後、9人の使徒たちが当惑した状態で取り残されていたのを見つけました。彼らは悪霊を取りつかれた男の子から追い出すことができなかったのです。彼らは他の人からは悪霊を追い出していたのです。何が変わったのでしょうか？ イエス様は戻られると、すぐに子どもから悪霊を取り除きました。イエス様はすぐに彼らの信仰の質について話されました。それは「曲がった」ものであり、実のところ「不信仰」でした。彼らは神様ではなく、自分自身の能力を信じていました。イエス様はたとえ量は少なくとも、神様への真の信仰があれば大いなる障害を乗り越えることができるのだと指摘しました。

私たちはどれほど頻繁にこの同じ難問につかまるのでしょうか？ 人生が難しくなると、私たちはコントロールすることを選らんで、神様が私たちを通じて私たちのうちに働かれることを本気で信じなくなります。神様に信頼することは、私たちが何もしないということではありません。それは私たちが自分の命の中で働かれる神様の力を認めて、そこにより頼むことを意味しているのです。

讃美歌 285

祈り 聖なる神様。私たちが信頼を学んであらゆる状況であなたに立ち返ることができるようにお助けください。私たちが、あなたがそれを通じて働くための奉仕の道具となることができますように。

イエス様の御名により。アーメン。

マイケル・オネール
フロリダ州 タイタスビル